

湿原の植物を守れ！イノシシ対策で官民連携 No. 1

[富山署]6月10日、水無国有林において、NPO法人利賀自然文化飛翔の会の会員ほかと、富山森林管理署との合同でイノシシ対策用のワイヤーメッシュ(金属網)の設置を行いました。

当該地は、ブナを主体とする広葉樹林に囲まれた湿原が広がり、ミズバショウ、リュウキンカ等の湿性植物群落や希少種のヤシャビシャク、ヨウラクツツジが自生し、白木水無県立自然公園第一種特別保護地域の指定を受けています。

かねてよりイノシシによる植物根の食害跡が確認され、くくり罠を設置して、有害鳥獣捕獲に取り組んできていますが、被害状況の確認により湿原の荒廃が懸念されてきました。

そこで、平成28年11月に富山大学、富山県、南砺市、NPOと協議を重ねるなかでワイヤーメッシュを設置することを決め、昨年からの設置し経過を観察しています。

今回、新たに約50平方<sup>メートル</sup>のワイヤーメッシュの設置を行いました。今後も継続して湿原植物の保護と保存を図っていくことにしています。



ワイヤーメッシュを設置 (ドローンにて撮影)

イノシシの現状を知って 対策シンポジウムを開催 No. 2

[岐阜署] 7月7日、～<sup>まち</sup>街のイノシシを知る～金華山イノシシ対策シンポジウムが岐阜大学講堂にて約80名が参加し開催されました。

このシンポジウムは、岐阜市、岐阜大学、岐阜県、地元自治会、ボランティア団体、岐阜森林管理署等が構成員となり平成27年10月29日に設立された「岐阜市金華山一帯のイノシシ被害対策協議会」が主催し、約三年間の活動内容と地域住民へ金華山のイノシシの現状について知ってもらうことを目的に開催されました。



岐阜署から猟友会への委託捕獲により  
捕獲されたイノシシ（金華山）

本来であれば最初に、基調講演として、イノシシ被害対策の第一人者である、兵庫県森林動物研究センターの横山真弓教授より「六甲山の事情を踏まえた街まちのイノシシと人との関わり方について」の講演をいただく予定が、関西地方を襲った豪雨災害によりキャンセルとなってしまいました。

基調講演はなくなりましたが、岐阜大学野生動物管理学研究センターの池田敬特任助教から「金華山一帯のイノシシ生息調査

結果について」と題し、三年間のセンサーカメラデータ等を分析した金華山一帯のイノシシ生息調査結果が報告されました。生息分布を正確に把握するためにカメラ設置場所を均等に配置したことにより、金華山一帯での平均生息密度が59頭であるとわかったことや、市街地近辺の利用は一日中少なく耕作地周辺は夜間に集中的に出没していることなど、興味深い報告がありました。



土田総活森林整備官より岐阜署の取組報告



質疑応答に答える各機関の代表者

つづいて、活動紹介として、岐阜森林管理署と岐阜市農林部から報告があり、当署からは土田総活森林整備官が、地域連携推進等対策として、地域と連携し協議会を立ち上げるまでの経緯や頂上付近で実施している地元猟友会による委託捕獲、民有地境での緩衝帯整備について報告を行いました。

最後に、岐阜大学の鈴木教授をコーディネーターに、事前に募集した質問等に対し各機関の代表者による質疑応答が行われ、イノシシ、シカに対する忌避剤の効果についてや、道路からの侵入を防ぐ方法についてなど熱心な質問が出されました。

終了に際し、協議会会長の岐阜大学鈴木教授から、イノシシへの餌付けの禁止など、人的被害を防止するため、近隣住民や観光客に対して、今後も協議会を通じ啓発活動を推進していきたいと抱負を述べられていました。